

[短 報]

菅平産の淡水コケムシ

織 田 秀 実

〒 168-0082 東京都杉並区久我山 5-27-15

Freshwater Bryozoans Occurring in Sugadaira

Shuzitu ODA

5-27-15 Kugayama, Suginami, Tokyo 168-0082, Japan

Synopsis

There have been known 14 species of Phylactolaemata and two species of Gymnolaemata as freshwater Bryozoa in Japan (TORIUMI 1956, ODA 1990). Two species of Phylactolaemata, *Plumatella repens* (LINNÉ) and *P. emarginata* ALLMAN, were found from the small artificial ponds in Sugadaira, Nagano Prefecture, on a survey in 1992.

Key words: Bryozoa, freshwater, Plumatella, statoblast, Sugadaira

Bull. Sugadaira Montane Res. Cen. Vol. 14, 79-81 (1997)

1992年8月、真田町誌自然編作成のため、菅平の淡水産コケムシ類を調査した結果、ヤハズハネコケムシとハネコケムシの2種を見いだしたので、その成果をここに報告しておきたい。

日本からは、淡水産コケムシ類として、被口類Phylactolaemata 14種、裸口類Gymnolaemata 2種が報告されている (TORIUMI 1941, 1956, 織田 1990)。コケムシ類は世界で約4,000種が知られているが、ほとんどが海産で、淡水産のものは約50種にすぎない。菅平で今回得られた2種のコケムシはいずれも被口類に属し、世界的に広く分布する種類である。

菅平(北緯36°31', 東経138°21', 標高約1,300m)は根子岳と四阿山の裾野に広がる高原で、自然状態の大きな湖沼はない。比較的大きな人造湖である菅平ダムは多目的ダムとして用いられるので、夏は水量が減って岸辺が露出し、岸辺近くには水草も生えていない。岸近くの水域にも木片や朽木は見あらず、コケムシ類の生息地としては不適當であった。真田町立菅平高原自然館

(1997年9月30日受理)

裏の菅平湿原を調べたが、排水路を掘ってから水溜まりがなくなり、水路の流れも速くなって、コケムシ類を見つけることができなかった。

そこで菅平に点在する小さな人工池を調べることにした。そして、まず、底にシートを張って造った人工池である菅池で、栈橋近くに浮いていた古い朽木にヤハズハネコケムシの群体が広く生育しているのを発見することができた。持ち帰ったコケムシ群体には休芽 (スタトブラスト statoblast) が多数形成されていた。また、群体から3個体の幼生が脱出し、水中を浮遊するのを観察することができた。

つづいて、筑波大学菅平高原実験センター西側に隣接するグリーンパークの人工池において、水面に浮いていた木片にハネコケムシの群体が生育しているのを観察することができた。しかし、休芽の数は少なく、わずか2個のみであった。

以下、簡単に上記した種の特徴を記しておく。

ハネコケムシ *Plumatella repens* (LINNÉ, 1758) (Fig. 1 A)

群体は樹枝状。虫体は比較的小さい。触手は52, 54, 59本を数え、口の周辺は無色であった。休芽は茶褐色で楕円形 (長径約0.36 mm, 短径約0.26 mm)。環状部の幅は一様であった。分布はヨーロッパ, アフリカ, アジア (インド, 中国, 日本), オセアニア (オーストラリア, ニュージーランド), 北アメリカ, 南アメリカと広い (BUSHNELL 1973)。

ヤハズハネコケムシ *Plumatella emarginata* ALLMAN, 1844 (Figs. 1 B, 2)

群体は樹枝状。虫体は比較的小さい。触手は33, 36本であった。口の周辺は多少、淡褐色がかっていた。多数の休芽が得られた。休芽は長楕円形 (長径約0.40 mm, 短径約0.25 mm)。環状部の幅は長軸の両極で広い。幼生は卵形, 長径約0.80 mm, その体内には2個のポリプ体原基 (芽) が形成され、回転しながら浮遊していた。分布はヨーロッパ, アフリカ, アジア (インド, 中国, 日本), オセアニア (オーストラリア, ニュージーランド), 北アメリカ, 南アメリカと広い (BUSHNELL 1973)。

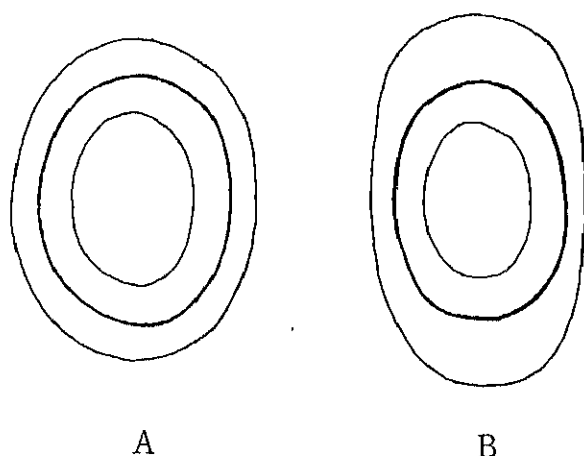


Fig. 1. Statoblasts (dorsal view).
A. *Plumatella repens*. B. *Plumatella emarginata*.

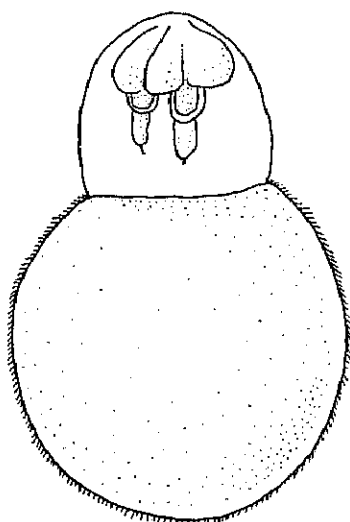


Fig. 2. A larva of *Plumatella emarginata* (0.8 mm in diameter).

今回菅平より発見された2種のコケムシは、主に平地の池沼に生息するものであるが、どのようにしてこのような山地の小池に分布したのであろうか。おそらくは、休芽が風で運ばれたか、あるいは鳥類により食べられた休芽が糞とともに排出されたことによるのであろう。また、菅池やグリーンパークでは放流された魚類の消化管を経て休芽が運ばれた可能性も考えられる。

菅平での淡水コケムシの調査・採集に種々の便宜を計っていただいた安藤裕博士に、深く感謝の意を表したい。

参考文献

- BUSHNELL, J. H. (1973) The freshwater Ectoprocta : A zoological discussion, pp. 503-521. In G. P. LARWOOD (ed.) "Living and Fossil Bryozoa — Recent Advances in Research", Academic Press, London.
- 織田秀実 (1990) 日本の淡水コケムシ. 日本の生物 4 (8) : 50-57.
- TORIUMI, M. (1941) Studies on freshwater Bryozoa of Japan. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. Ser. 4 16 : 193-215.
- TORIUMI, M. (1956) Taxonomical study on fresh-water Bryozoa. XVII. General consideration : Interspecific relation of described species and phylogenetic consideration. Sci. Rep. Tohoku Univ. Ser. 4 27 : 57-88.